

プロセス調停の基礎

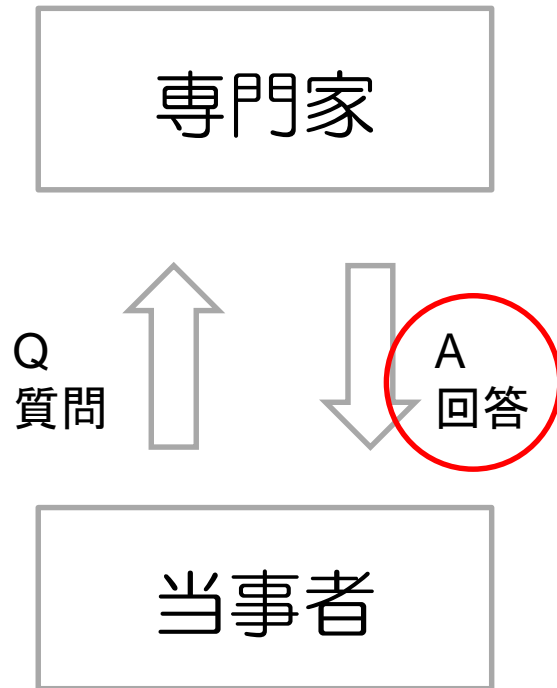
新しい調停の特徴

ボイス（声）とチョイス（選択肢）を
当事者に取り戻す

- 口頭手続の重視：書面中心主義からの反省
 - 当事者の自己決定の重視：専門家へのお任せ主義からの反省
- 処理でなく支援としての紛争解決手続。
当事者の能力による**主体的**解決を目指す。

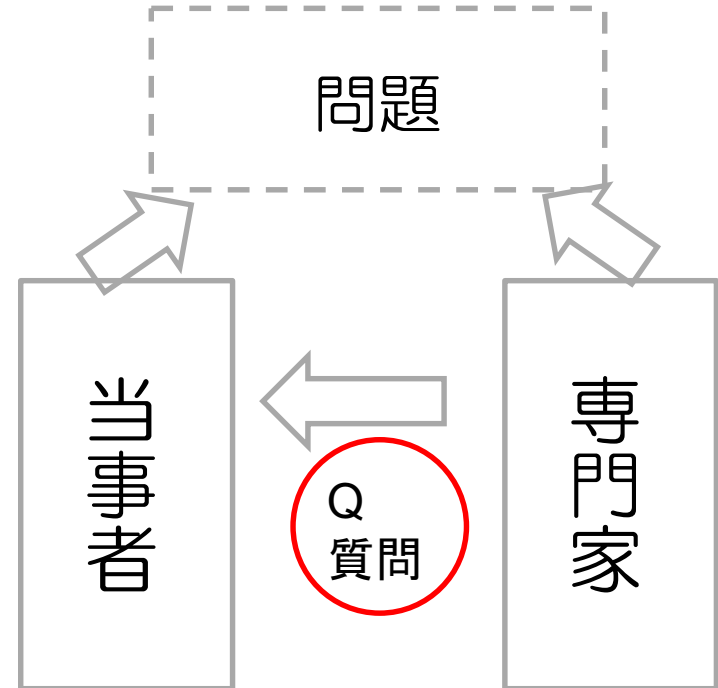
専門家像の転換

正しく「答える」ことから、正しく「問う」ことへ



伝統的な専門家モデル:

当事者が状況に関する情報を提供し、専門家が正解としての行動指針を示す。

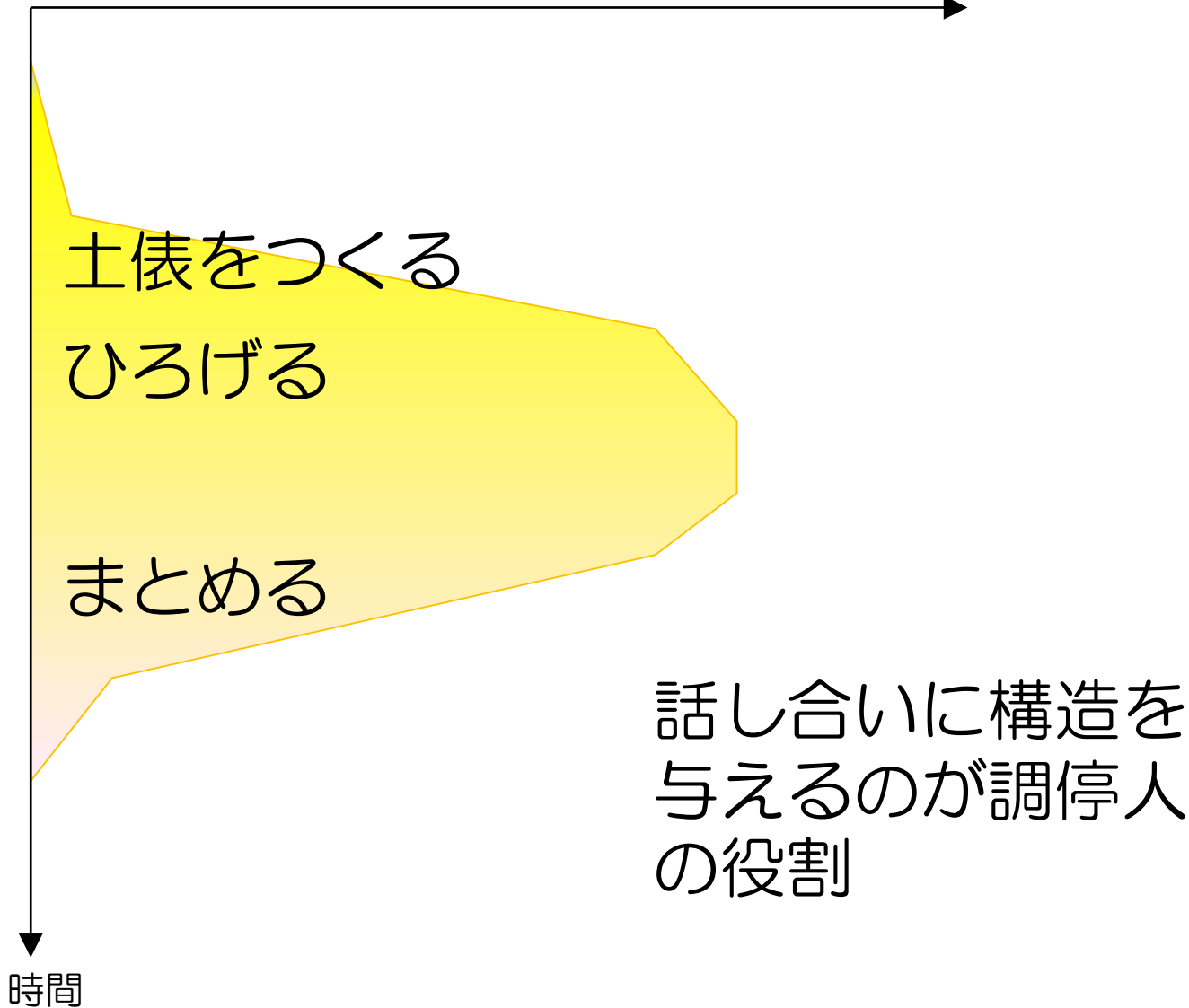


当事者専門家協働モデル:

当事者と専門家が問題解決に協働する。

調停の流れ

広がり



調停のタイプ

	評価型	妥協要請型	対話型
当事者像	敵対的・論理的	客体的	主体的
長所	専門家の判断による判決的解決	威信による効率的な紛争除去	自主的解決による納得
短所	当事者は敵対関係のまま	紛争の本質に踏み込めない	解決まで忍耐を要する。結果として解決できない場合あり。